

本資料は 2020 年 7 月 30 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

2020 年第 2 四半期の堅調な業績を踏まえ、クレディ・スイスは戦略強化に向けた重要なイニシアティブに着手

実効性の向上、効率性の推進および将来の成長機会捕捉を目指した一連の構造改革

- クレディ・スイスは、堅固なグローバル投資銀行事業を有する主導的なウェルス・マネージャーとしての戦略を再確認しました。
- 2020 年 8 月 1 日付の主な改革は以下の通りです。
 - **グローバルなインベストメント・バンキング** (IB) 部門を創設し、企業、機関投資家、起業家のお客様のための最大限の規模を有する、お客様志向のグローバル・プラットフォームを構築します。この改革には、グローバル・トレーディング・ソリューションやグローバルで一体化された株式プラットフォームの創設も含まれます。
 - **チーフ・リスク&コンプライアンス・オフィサー** (CRCO) に機能を集約し、統制部門の連携を深めます。
 - **新たにサステナビリティ・リサーチ&インベストメント・ソリューションズ** (SRI) 部門を立ち上げ、お客様に先進的なサービスを提供するとのコミットメントを確認し、インベストメント・ソリューションズ&プロダクツ (IS&P) とリサーチ機能の一元化と集約を目指し、サステナビリティ分野における主導的な立場となることを目指します。また、今後 10 年間で 3,000 億スイス・フラン以上のサステナブル・ファイナンスを提供すると目標に向けて**成長を図り**、生物多様性に対する**検討を深め**、従来のビジネスへのエクスポージャーを削減することで企業としての石油・ガス事業の**変革を図り**、燃料石炭の採炭、石炭火力発電、北極圏について新たな除外規定を導入し**制限を行います**。
- 成功を収めたウェルス・マネジメント事業の地域別アプローチに基づき改善を図ります。
 - スイス・ユニバーサル・バンク (SUB) 部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント (IWM) 部門、アジア太平洋 (APAC) 部門において**成長イニシアティブ**に対する投資を行います。
 - **アジア¹とスイス²それぞれの地域でインベストメント・バンキング&キャピタル・マーケット (IBCM) フランチャイズの首位を維持することを目指し**、ファイナンス、ミドルマーケットの M&A および IWM 部門でのアドバイザー機能をさらに強化します。
- 2022 年以降も現行の**年間約 4 億スイス・フランの節減**を図り、市場や経済状況を勘案しながら、当グループ全体にわたる成長イニシアティブに十分な再投資が可能となることを目指します。
- 中期的には、引き続き**資本の約 3 分の 2³をウェルス・マネジメント事業⁴に配分**し、成長を加速させる収益機会の獲得を図ります。

クレディ・スイス・グループ AG の会長、ウルス・ローナーは次のように述べています。

「既存のグループ戦略の再確認は、その成功の上に成り立っており、当グループが引き続き、投下資本の大部分をウェルス・マネジメントに配分していくことを確実にするためのものです。本日発表した新たなイニシアティブは、このモデルをさらに最適化し、不透明な市場においてクレディ・スイスが引き続き強靭性を保っていることを反映しています。これらの改革によって、クレディ・スイスは今後も持続可能な株主価値を提供し続けると確信しています。」

クレディ・スイス・グループ AG の最高経営責任者 (CEO)、トーマス・ゴットシュタインは次のように述べています。

「再編と再配置が成功を収め、デジタル化や持続可能性などの重要な長期的トレンドが勢いを増す中、クレディ・スイスは本日、実効性を高め、効率性の向上を図るための一連の戦略的イニシアティブを発表しました。これによって更なる投資が可能となり、投資パフォーマンスと持続可能性を戦略の中心に据えながら成長を加速させることが期待されます。本日概説する施策は、クレディ・スイスの統合されたモデルを一段と強化し、強力な能力を有するグローバル投資銀行事業でウェルス・マネジメントの世界的なリーダーたるに適した施策だと確信しています。また、これらのイニシアティブは不透明な市場に強靭な回復力をもたらすとともに、経済状況の回復がさらに広がれば、一段のアップサイドをもたらす効果もあるはずです。」

チューリヒ、2020年7月30日— クレディ・スイスは、ウェルス・マネジメント・フランチャイズを中心とした再編、リスク削減および成長投資の成功を踏まえ、また、[2020年上半期の好調な業績](#)を背景に、実効性の向上、不利な基調の市場を乗り切る強靭性の提供、成長の加速および効率性の推進を目指した一連の施策を本日発表しました

クレディ・スイス・グループ AG の取締役会は、2020年7月29日の会合で、堅固なグローバル投資銀行事業を有する代表的なウェルス・マネージャーとなるという既存の戦略を再確認し、既存の業績を踏まえて設計された一連の重要なイニシアティブを承認しました。

この戦略は、先進国市場と新興国市場とのバランスの取れたアプローチ、中核的な強みとして超富裕層 (UHNWI) に重点を置く起業家向けの銀行、お客様への近接性を提供する地域に結び付いたのウェルス・マネジメント・モデルという3つの重要な方針に引き続き基づいています。

金融業界は、デジタル化の加速、持続可能性の重視、プライベート・マーケットの拡大およびファイナンス・ニーズを左右する業界再編などの重要な長期的トレンドの影響を受けています。こうしたトレンドの多くは、新型コロナウイルス (COVID-19) の世界的な感染拡大と、それが経済や社会にもたらす影響のみによって際立たされてきました。そのために、クレディ・スイスは事業モデルの最適化と調整を行い、アップサイドをさらに拡大させ、不利な基調の市場や経済環境を乗り切るための強靭性を提供して参ります。

さらに、組織的な機会の活用を図り、業務の特定分野において分断を縮小し重複を排除することで、投資銀行機能、コンプライアンスおよびリスク機能、ならびに IS&P および調査機能の更なる向上を目指します。

本日発表した施策は、2015年から2018年までの3年間にわたるリストラクチャリング・プログラムが成功裏に終了しており、その後も継続して成果を上げていることによる効果を踏まえたもので、適切な市場と取引活動に焦点を当て、より良い資本配分を確保することによって、長期的で持続可能な、更なる収益性と株主還元拡大を図ることを目指しています。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

1. 出所: ディールロジック（2020年6月30日までの期間、アジア太平洋（APAC）は国際的な銀行のうち日本と中国のオンショアを除きます。）
2. 出所: トムソン・セキュリティーズ、ディールロジック、IFR（2020年6月30日までの期間）
3. バーゼルIII改革の最終的な影響が生じる以前のものであります。
4. スイス・ユニバーサル・バンク（SUB）部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント（IWM）部門、APAC部門およびコーポレート・センターを含みます。